

日野市立教育センター一報

教育センターだより

第11号 平成19年 3月 2日発行



日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

～午後5時15分



ひのっ子の豊かな成長に向けて

日野市教育委員会指導主事

梶野 明信

昨年は、高等学校や中学校における未履修問題、いじめにかかわる自殺予告文書が文部科学大臣に送られる等のいじめにかかわる問題が社会問題になり、マスコミ等でも大きく取りあげられたところです。このような中、国では、中央教育審議会を中心に、義務教育の在り方など教育改革の審議を推進しています。昨年12月には教育基本法が改正され、さらに、学習指導要領の改訂に向けても大きく動き出しました。今後、教育改革の波が次から次へと押し寄せてくることが推測されますが、学校は児童・生徒の健全育成、確かな学力の定着に向けて特色ある教育活動を展開していかなくてはなりません。

さて、平成18年2月に出された「審議会経過報告」の中に、「学習や生活の基盤づくりを進めていくためには、学校の教育内容及び教育方法について、実生活と一層意識的に関係付ける必要がある。具体的には、発達の段階に応じて、自然体験、社会体験、職場体験、文化体験等の適切な機会を設定することが求められる。身近な実生活とのかかわりの中で、実感をもって各教科等の知識や技能を習得できるようにすることが重要である。」とあります。日野市では、それぞれの学校が、地域の実態を生かし、さまざまな体験活動をとおして特色ある教育活動を展開しています。

児童・生徒の確かな学力の定着のためには、教師の授業力の向上が必要です。市内の小・中学校では、都の「学力向上を図るための調査」や、市で行っているCRTなどの結果をもとに、授業改善推進プランをたて、授業改善に取り組んでいます。また、教員の授業力の向上に向け、初任者研修、2・3年次授業力向上研修、4年次授業観察、夏季全体研修会や夏季教員研修会、ICTや特別支援に向けた研修会など職層や教育課題に応じ幅広く研修しています。そして、教育センターは日野市の新たな教育課題や施策に生かすための調査研究、教員研修、相談活動などを行っています。教育課程委員会、ICT活用研究委員会は、日野市の重要施策とかかわり、郷土教育推進研究委員会、地域理解推進研究委員会は、教材開発や地域のリーダー養成を目指しています。そして、不登校やいじめ等の今日的な課題に対し、相談活動の体制も充実させています。これらはすべて、ひのっ子の豊かな成長のために取り組んでいるものです。

現在、基礎的・基本的な学習内容の定着や、不登校やいじめの解決、親子の地域活動への支援などの教育課題に加えて、「授業改善」という新たな課題も生まれてきています。このような時代の要請を考えたとき、本センターへのシンクタンクとしての期待は、ますます大きくなっていくことと思います。センターの調査研究が、日野の宝である子どもたちへのよりよい教育につながることを願い、これからの発展に期待しています。

調査研究部

日野市の教育課題の追究に挑戦する教育センター調査研究部の基礎調査研究係（教育課程の研究）、教育経営係（ICTの活用に関する研究）、教科等教育係（ひのっ子教育21開発委員会研究）、ふるさと教育係（郷土教育推進研究）、生涯学習係（地域教育推進研究）は、市内の小中学校・学識経験者・地域の皆様方・関係諸機関等のご協力を得て、今年度の研究もまとめの段階に入ってきております。そこで、調査研究部の活動並びに成果と課題を以下のようにまとめましたのでご活用ください。

I. 教育課程（カリキュラム）の研究

基礎調査研究係

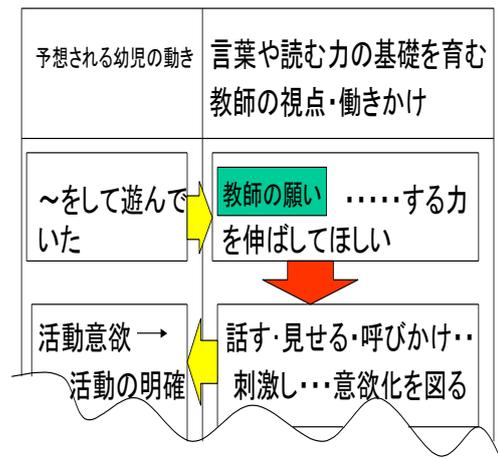
本年度は、「幼・小・中」の円滑な接続・一貫性のあり方」についての研究を進めました。

- (1) 連携教育のあり方について明らかにし、日野市の連携教育が各園・各校でどのように進められているかを把握し、その上で、連携教育をどのような方向で進めていけば、より効果的であるか、学校間の段差を乗り越えるために、各校でどのように教育課程に位置づけ教育活動を進めていくかを考察しました。
- (2) 異校種間の接続期における教育活動の接続・一貫性を図るために、幼・小では幼稚園教育要領と小学校学習指導要領、また、小・中では小学校学習指導要領と中学校学習指導要領のつながりを吟味し、それぞれの共通の到達目標を明確にしながら学びの連続性を明らかにしました。異校種間の接点で、学びを滑らかに接続させるために、指導内容の観点を明らかにすれば、接続・一貫性が図ることができると考えました。
- (3) 各校種の教育方法には、大きな違いがあります。この違いを共通化することによって、接続期の子どもたちの戸惑いや違和感を減らす工夫を探ってみました。

研究の成果と課題は、次の通りです。

- (1) 教育を異校種間の単なる交流活動としてのとらえ方だけでなく、学びを連続させ、滑らかに接続させる教育課程上の実践を進める幼稚園・小学校・中学校が増えています。2年にわたる教育接続研究が、異校種間の段差を低くするための取り組みとして広がってきているきっかけの一つととらえています。
- (2) 幼稚園教育要領「言葉」や小学校学習指導要領・中学校学習指導要領「国語科／読むこと」における各校種間のつながりを検討していく中から、接続期の指導の観点を明らかにすることができました。各校種間の学習内容は同じ土俵でつながっており、その系統性と発展性を明らかにして指導することによって、各校種間に横たわる段差を低くすることがわかりました。
- (3) 各校種における指導法は、大きな相違が存在していることを、本年度の研究からもあらためて認識しました。保育参観・授業参観や保育・授業交流により、幼稚園・小学校・中学校の教員がこの違いを認識することでも意義あることがわかりました。この認識の上に立って、幼稚園や学校では、日常の学習指導のあり方を工夫していくことが大切です。幼稚園・小学校・中学校に厳然としてある指導法の違いを、相互の教員同士の学び合い、よりよい指導法の追究により克服していく作業が、今後も課題と残されております。

言葉を育み、読む力の基礎を育む視点を明確にした幼稚園保育過程例



II. ICT 活用に関する研究

教育経営係

ICT の効果的な活用 “ひのっ子の学力向上” をめざす

ICT 活用実践部会は ICT 活用教育のモデル校を通し、ICT 活用実践授業を通じた効果的な活用・情報モラル教育の推進・校務支援システムの活用等、積極的な実践と研究の成果を発表することで ICT 活用教育への提言・普及・推進を担ってきました。

ICT 活用教育モデル校の研究発表

1. 潤徳小学校（平成18年10月26日）

本格的な ICT 教育環境が整備されて間もない研究発表会となりましたが、潤徳小の教職員は、積極的に最新機器を授業に活用し、児童が意欲的・主体的に学習に取り組む姿を実証しました。

①教材提示（デジタル教科書・書画カメラ・e-黒板の活用）の工夫で分かりやすく説明した全ての授業 ②インタラクティブスタディの機能を活用した算数の個別学習による基礎・基本の徹底 ③スタディノートやスタディノートの web 掲示板を使用し、意見交換・情報交換・アドバイス等を取り入れた課題追究力や課題追究能力の育成 ④インターネットで天気の詳細に必要リアルタイムの情報収集を通して問題解決能力の育成等に ICT が有効活用され、児童の学力向上、情報活用能力の向上に効果的でした。

2. 夢が丘小学校（平成19年1月26日）

夢が丘小学校は、2 年間 ICT 活用教育モデル校として日野市の教育課題に取り組みました。ICT 活用年間指導計画に基づき、研究と実践を日々積み重ねた成果は、ICT 活用教育推進の先進校として他校の参考になる発表でした。

各教科のねらいや児童の実態に即し、日常的に ICT が効果的に活用され、児童の学力向上をめざしました。

ー公開授業よりー =基礎学力の定着=

第1学年算数「たしざんとひきざん」

インタラクティブスタディ（※インタラクティブスタディは個に応じた学習や指導、学習成果の分析や評価ができる等の機能がある）の診断結果を活用し、一人ひとりの理解状況を把握した個に応じた適切で効果的な指導が行われていました。



3 日野第三中学校

校務支援システムの活用モデル校として、校務の効率化と情報の共有化を図った先行的研究は、その成果を可能な限り情報公開し示唆してきました。

- ・平成18年12月6日校務支援システム活用の様子を第19号 ICT 活用 NEWS で公開
- ・平成19年1月22日教員養成を行うための教材に選ばれ取材を受け普及に貢献
- ・平成19年2月27日教育センター調査事業研究発表会で校務支援システム実践発表
- ・平成19年3月日野第三中学校研究収録を各学校に配布予定

※ ICT 活用研究委員会は、平成19年度も日野市立小・中学校の ICT 活用教育を推進します！

Ⅲ. ひのっ子教育 21 開発委員会

教科等教育係

ひのっ子教育 21 開発委員会は、「教育用コンテンツの開発及びインターネット上にある教材研究にもとづく授業実践」に取り組んできました。開発委員会の今年度の目的は、今年度から「日本一の ICT 教育」をめざし、本格的に始まった日野市教育委員会の ICT を活用した教育活動を充実化に役立てるために研究を深めることです。

- 1 学力向上のために、ICT を活用した教材を開発し、市内の学校に提供する。
- 2 日標の達成状況の把握及び補助教材の作成を通して、個に応じた指導方法の活用を図る。
- 3 インターネット上にある教科及び情報モラルについての効果的な教材について吟味し、それを活用した授業実践を行う。

昨年 4 月発足以来、一年間かけ小学校部会と中学校部会に分かれ、次のような内容を深めてきました。

小学校部会

- * 算数科のコンテンツの作成（教材開発ソフト「スタディーライター」を活用して）

目標分析（学習指導要領分析・教科書分析）

実態把握（誤答傾向やつまずきの原因分析）

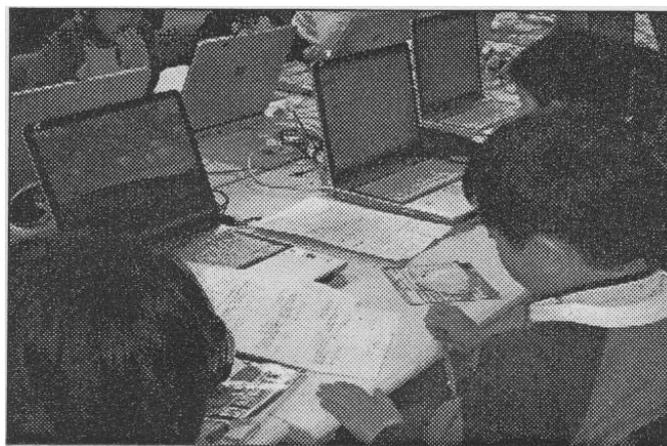
教材目標設定

応答カテゴリー（誤答パターン）設定

教材全体構造設定

画面展開設計

- * 作成したコンテンツを用いた授業実践
評価情報から一人一人の子どもの学習状況を即時に見取り、指導に生かす。



中学校部会

- * 各教科のインターネット上の教材の吟味
- * インターネット上の教材を活用した授業実践（指導案への位置づけ）

この研究の結果、ICT を活用した授業改善を進めることにより、これまでよくいわれてきた「指導と評価の一体化」が、コンピュータの活用により素早く正確に把握でき即時に指導に活かすことができる、子ども達の学習意欲の向上を図ることが出来るなど、次のような内容について、改善が図れることがわかりました。

・ ICT 活用による教師の授業力の向上

【目標分析・子どもの実態把握・教材分析・教材作成・授業設計・個に応じた指導・評価】

・ ICT 活用による児童・生徒の学習意欲・基礎学力の向上

これらの研究の成果を今後「ICT を活用した授業改善（わかる授業・個に応じた授業・魅力ある授業の実現）」に生かすため、2月23日（金）に、日野市立日野第四小学校で市内の小・中学校に向け報告会を開催しました。

併せて、今後日野市内の各学校に広めるために、ICT 活用教育推進室のホームページ等で紹介するなど、各学校での活用化を促していきます。

更に、次年度以降の更なる ICT 活用の充実に向け、教材の活用や教材作成能力の向上に役立てていきます。

『郷土日野』指導事例 第2集の活用を

郷土教育推進委員17名の力を結集した『郷土日野』指導事例 第2集の仕上げも射程距離に入ってきました。第2集の作成にあたっては、

- 1、「一郷土と人々との関わりを理解をとおして一郷土意識を育む」授業実践例を提示し、郷土教育によって、育まれる児童生徒像を打ち出す。
- 2、委員それぞれが学区にある自然・歴史・文化に光をあて、授業に使える郷土教材を収集・開発する。また、小学校・中学校における学習との関連性で郷土に関する資料や蔵書を紹介する。
- 3、郷土資料館、図書館、小学校・中学校、教育センターの協働による研究から、郷土資料館や図書館を活用した学習活動のあり方の具体事例を作成する。

以上3点を柱に、第1集に加えて郷土教育推進に寄与できること、学校現場に根づくことを念頭に調査研究を進めてきました。

本年度は、郷土教材活用の意図を「自然・歴史・文化財から人の生き方を学ぶ」という考えにたち、研究の副主題を一郷土と人々との関わりを理解をとおして一と設定しました。「郷土日野」の自然、歴史、文化を築いてきた先人の業績や努力、さらには、現在郷土を育て発展させようと力を尽くしている人々の姿をどのように教材化するか、そして、これらを共感的に理解する指導のあり方を、学校、郷土資料館、図書館、教育センターとで協働してきたことは、これからの教育のあり方を考える重要な研究であったととらえています。

課題解決のために資料館学芸員から、準備された実物、古い文献、絵図、専門書等の紹介と説明をもらった子どもたちが難解な資料に挑戦し、自分たちの力を合わせて解読していく姿に関心・意欲の高まり、密度の濃い知識を得たことへの満足感、郷土の人々の思いや、あり様への感動の授業は、協働研究の賜物です。また、郷土資料に関する情報量が増えたことは、郷土教材の収集・開発を進める上で大きな力となりました。

身近にある郷土教材の活用から自然・歴史・文化をたくさん学ぶことは、自己中心的な考え方を脱却、理解・感動・尊敬の念をとおして社会性を育み、「郷土に対する誇りと愛着をもつ」ひのっ子が育成されるものと信じています。地域を広げてさらなる教材の収集・開発、情報の発信、教育課程編成など、課題は多々ありますが、郷土教育の実践が継続して積極的に行われることを願っています。

第2集の内容紹介

1、授業に使える郷土教材

- ①我が地域が誇る郷土教材 日野煉瓦、日野の用水、中世の武士（高幡不動の胎内文書等）、平山陸稲と林丈太郎、百草周辺の歴史、多摩平団地の今と昔、坂西横穴墓群、多摩八王子競馬場 他
- ②郷土資料館、新選組みのふるさと歴史館、図書館にある郷土資料の活用と活用例
- ③日野の学校の歩み

2、郷土教材を活用した授業の展開例

日野の用水、自由民権運動と日野、昭和35年当時の地図からみた歴史、我が町！百草の歴史 他

3、資料 ①周年記念誌にみられる郷土教材の一覧

- ②『郷土日野』指導事例 第1集』並びに郷土教材の活用状況の実態調査集計と考察

5月上旬には各学校に配布できる予定です。ご期待下さい。第1集、第2集ともに、いつでも、だれでもが使える活用・保管を是非お願いします。



—緑と清流のまち日野—

わさび田と黒川清流公園

日野台地の崖下から流れ出る豊かな湧水を利用してわさびが栽培されています。

「黒川湧水を生かす会」の人たちの手で育てられ、湧水と緑の環境整備が市と協働で行われています。

雑木林に覆われた黒川清流公園は、水生昆虫、野鳥、湿生植物などの宝庫です。

V. 地域教育推進研究

地域教育推進研究委員会

「未来の大人たちのために今、できること」は、地域を充実させ、児童・生徒の居場所をつくることです。そこで、今年度は、地域の中で子どもといっしょに活躍する教育リーダーや学校との連携や調整をするコーディネーターを育てるための養成講座を開きました。



第1回地域教育リーダー養成講座

「今なぜ地域教育が必要なのか」

第3回地域教育リーダー養成講座

「地域教育リーダーにとって何が必要か」

講師 西村美東士

子どもにとっての地域、居場所の意義は「癒しから社会化へ」地域活動で明確にすることは『獲得する能力』を受け手に提示することが大切なのです。そして、子どもたちが達成感を味わうことが大切なのです。クドバス法で具体的行動目標をみつけ教育計画をたてるワークショップを行いました。



第2回地域教育リーダー養成講座

「地域の教育力を如何に活性化する」

講師 木下 正次

ご自分の地域での実践を熱くお話ししていただきました。老人クラブや自治会の活動を活発にすることが豊かな地域づくりになり、子どもたちの暖かい人間関係をつくるのに役立ちます。老人会や自治会の会員を増やし活動を活発にするにはどうしたらよいかを講演していただきました。



第4回地域教育リーダー養成講座

「現代の青少年の理解とそれをいかした地域教育の推進」

講師 和田由里子

現代の青少年の気持ちや考えを知りたい。そしてみんなで楽しく遊びたい。このノウハウを学びました。



第5回地域教育リーダー養成講座

「地域の教育力を生かすプランニング」

講師 笹木延吉

潤徳小学校の水辺の楽校の取り組みの実践からボランティアとして活動するための精神をお伺いいたしました。自ら、ナショナルトラストに参加しての体験から、子どもの意識を変えることが大人の意識の改革につながるというお話を伺いました。

<成果と課題>

- ①参加人数は少なかったが、大変有意義な講座だった。地域での活動に役立てたい。特にクドバス法は地域のニーズを汲み取るには有効である。今の子どもとのやりとりにも役にたつ。
- ②連続参加者に集まっていただき連絡推進協議会を設置することが必要である。
- ③様々な団体が活動しているが、整理統合するためのコーディネーターが必要である。

研修部

日野市教育委員会主催研修会から

本年度4月からスタートした市教委主催教員研修の10月までにおける研修会参加状況の一部を紹介します。

日野市教育委員会主催研修会のまとめ

月	日(曜)	研修会名	内容	出席人数
4	20(木)	学校組織マネージメントⅢ	主幹への期待とその職責	39名
5	2(火)	学校組織マネージメントⅢ	学校の活性化と組織マネージメント	35名
	17(水)	幼児教育研修	小学校教育につながる就学前教育推進	25名
	25(木)	学校組織マネージメントⅠ	個人情報保護について	23名
6	14(水)	幼児教育研修	義務教育へつなげる就学前教育	22名
	15(木)	中学校授業改善研修	授業研究(中学校国語科1年)	5名
	27(火)	学校組織マネージメントⅡ	副校長に期待すること	26名
7	21(金)	全体講演会(全日) 午前の部Ⅰ部 午後の部Ⅱ部・Ⅲ部	「二学期からの授業改善に向けて」 「宇宙に現場から、先生たちへのメッセージ」「子どものやる気を引き出す先生をめざして」 構成的グループエンカウンターの実演	536名 531名
	24(月)	教育相談研修	ロールプレイングの実際	20名
	25(火)	教育相談研修	黒川清流公園、多摩平の森	25名
	26(水)	郷土教育研修会	学校における接遇の在り方	27名
	27(木)	学校組織マネージメントⅠ	学校における接遇の在り方	23名
	27(木)	学校組織マネージメントⅡ	学校飼育動物研修〔講義観察・実習〕	24名
	31(月)	生命尊重教育		15名
	8	1(火)	生命尊重教育	学校飼育動物研修〔講義観察・実習〕
2(水)		環境教育研修	浅川を活用した環境学習	24名
10(木)		小学校英語活動研修		25名
11(金)		小学校英語活動研修		19名
30(水)		学校組織マネージメントⅢ	学校における接遇の在り方	30名
9	12(火)	心の教育研修	道徳研究授業 中学校 1年	21名
	13(水)	幼児教育研修	小学校生活科交流活動	24名
	15(金)	中学校授業改善研修	少人数・習熟度別指導中学校数学2年	4名
10	3(火)	学校組織マネージメントⅢ	教員の能力育成	35名
	18(水)	幼児教育研修	幼小連携の推進	21名
	27(金)	小学校英語活動研修	授業研究 英語活動 6年	25名
11	13(月)	中学校授業改善研修	授業研究 中学校理科 1年	8名
	15(水)	幼児教育研修	幼小連携の推進	20名
1	15(月)	学校組織マネージメントⅢ	主幹としての1年を振り返って	35名

教職員の指導力向上が求められています。その達成のためには、研修が不可欠であり、今年度も計画的に実行してきました。忙しいなかを必要に迫られて参加してきた教職員が多く、その数字にあらわれています。

今後も、学校との連携を深めながら、教職員の研修のあり方を追求していきたいと思っております。

相談部

一般教育相談係

一般教育相談部

相談室へのご協力、本年度もありがとうございました。

1 今年の相談室は、新規の相談の受け入れを工夫しました

昨年度は、相談件数が多くなり相談開始まで多少の時間を頂いておりました。今年度は、相談に改善が進めるなどして、新規相談の増加に対応出来るようになりました。昨年来、皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。今後は出来る限り新規の方々のご要望に応じていきたいと考えております。特に、緊急性の高いケースの場合は対応を早くしたいと思います。また、電話で相談を申し込まれた中で、来所しての相談が必要と判断させていただいたときは、初回の受け入れ相談を出来るだけ早く設定したいと思います。その後、相談室で相談内容を吟味させていただき、今後の方針を他の適切な医療・相談機関の紹介等を含めて、対応していきたいと考えております。

2 学年末です。揺れる心にご配慮ください

学年末が近づき、教室内の子どもの動きは普段に比べ揺れてはいませんか。ある人は進学のこと、また進路のこと、進級に伴う不安で、クラス替え等に伴う友達や先生のことなど不安になり、悩んでいる人があるかもしれません。今年度のまとめにあたって、子どもには、不安はなく、大いに期待と希望の持てる新しい挑戦の機会となるよう励まして欲しいと考えます。また、成長に伴って、心身の変化に周囲が対応し切れていないこともあるかもしれません。そんなことが継続するようでしたら、スクールカウンセラーなどとも相談し、相談室にご連絡下さい。原因が単に生活上の課題ならば生活の改善で治まることも多いと思います。しかし、発達障害が伴うことであれば特別の配慮や対応が必要になります。また、医療等の援助も必要となることもあります。ご本人も苦しみ、改善・努力をしても、気持ちや体は、意に反して動いてしまうかもしれません。周囲の方に、なかなか理解して貰えない苦しさが大胆な行動となることもあるでしょう。誤解されることも多いと思います。他の人から仲間はずれにされ、いじめの対象となってしまうこともあるでしょう。本人がやったことではないのに、罪を押しつけられてしまうことがあるかもしれません。こんな時は周囲の人の気づきで温かく理解していくことが求められていると思います。「トラブルを起こしてしまう子」、それは内面からのサイン。このことを念頭に置き、対応をお願いしたいと思います。相談室は出来る限りそんなお子さんの支援をしてきたいと考えています。

3 相談室へのご要望をどうぞおよせください

教育相談室の活動は、学校や家庭と連携をしながら、一人一人のお子さんの学校や家庭生活上の様々な課題に対して、来所された方に相談のお手伝いをする所です。今、相談室では、特別支援教育が本格的に実施されると、相談室としては、どのような形でお手伝い出来るのを考えております。その他、相談室へのご意見やご要望を伺いながら、ご期待に応え改善できるように考えていきたいと思っております。ご要望がございましたらお知らせ下さい。

学校生活相談「わかば教室」の活動

学校生活相談係・わかば教室

学校生活相談係では、「共感的・肯定的に理解する」「子どもの心理に目を向ける」を相談の基本姿勢としています。適応指導教室「わかば教室」に通室する児童・生徒には、こうした理解を日常の指導・支援につなげ、個に応じた指導・支援を行っています。

健全育成関係では、各学校の協力のもとに、毎月の調査から、市内の長期欠席児童・生徒の実態把握と助言、生活指導上の課題把握と助言等、日野市立教育センター学校相談係。「わかば教室」としてその整備・充実を図りながら、児童・生徒の健やかな成長を目指して運営しています。「わかば教室」の主な活動は次のとおりです。

1 教育相談活動

「わかば教室」に通室する子どもたちには、カウンセラーが計画的に、継続して個別面接を行ってきました。必要に応じて保護者への相談も積極的に行っています。学校生活や不登校、引きこもり状況にある子どもへの相談は、面接や電話、手紙、訪問等で行っています。

2 個別指導・支援計画に基づいた指導・支援

子どもの状況は多様です。そこで、わかば教室・保護者・在籍校の三者が共有し、子ども一人ひとりへの働きかけを意図的・計画的に行うため、個別に指導・支援計画をたてています。また、その時々に応じた適切な指導・支援ができるよう計画を見直し、指導・支援のあり方の改善を図ってきました。

3 豊かな体験活動・スポーツを重視（野菜づくり・調理実習、保育園児・高齢者との交流、動物との触れ合い、音楽鑑賞・音楽発表、茶室での茶道体験、読書指導、スポーツ大会等）

体育館・運動場・公民館の実習室等の施設利用、また、近隣の高幡台老人ホーム・保育園・多摩動物公園・茶道の先生等の協力により、貴重な交流体験もできました。朝・昼休みには、元気に、毎日スポーツに励んでいます。

4 個に応じた教科指導（学習タイム）

学年や学習進度の違い、子どもの思い等を考慮し、個別時間割を作成して、基礎的な学習指導・支援に努めています。進路指導は在籍校と連携して進めています。



通室する子どもたちは、個人差はありますが、確実に、笑顔を取り戻し、継続して通室するようになります。在籍者の約5割の子どもは、授業・行事に参加、相談室登校、定期テスト等で部分登校しています。学校復帰や社会的に自立する子も増えています。

以上、学校・家庭・地域・関係相談機関等と連携し、不登校や登校渋り等、不安や悩みを抱えている子どもたちが、何とか自信と誇りを取り戻し、学校へ、社会へと歩み出して行けるよう職員みんなで活動しています。「わかば教室」利用者も増えています。

これからも皆様との連携を大切にして、子どもたちの健やかな成長を目指し、「ゆるやかに・のびやかに・おだやかに」、個に応じた指導・支援・相談に努めてまいります。

1年間のご理解・ご協力・ご支援に感謝いたします。来年度もよろしくお願いいたします。